

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里 A棟		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	令和4年3月17日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0175800358-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0175800358-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自尊心やプライバシーを維持しながら本来その方が持っている残存機能を生かし「その人らしく」生活を送ることができるよう努めています。四季に応じてホーム主催の地域の方が参加できる行事に地域の人たちとの交流で信頼されるホームを目標にしています。隣にはデイサービスが併設されており時々交流を持っております。災害や緊急時に対しての支援体制が整備されています。職員も日々試行錯誤を重ねながら気づきや又、学びをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR栗山駅から車で5分程の、近くに栗山公園やホームセンター、スーパーなどがある利便性の高い住宅地に位置する平屋建て2ユニットのグループホームである。前庭に東屋が設置され、気軽に外気浴を楽しむことができる。居間は大きな窓が南に面し、明るく開放的で、大きなソファ、観葉植物、遊び道具などが配置されている。食堂と居間を中心に各居室があり、トイレや浴室はプライバシーが保ちやすい場所にある。感染症流行により、お祭りなどのイベントでの地域交流が難しくなっているが、事業所の庭に近隣の方が散歩に来て犬や猫を見せてもらいながら住民と交流することができている。栗山町内で介護事業所連絡会議が定期的であり、町職員や地域包括支援センター、他の介護事業所などと活発な情報交換を行っている。医療支援の面では、往診と通院の体制があり、受診内容の記録も整備している。食事の面では彩りの豊富な食事が提供され、敷地内の家庭菜園で採れた野菜も提供し、季節感が楽しめるようにしている。入浴の面では、日曜以外の毎日入浴でき、体調や希望に応じて翌日にずらすなど臨機応変に対応している。また、入浴剤を使ったり湯加減を調整して気持ちよく入浴できるようにしている。居心地のよい環境の中で、自分らしく生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念はホーム内に掲示しています。その理念を意識しながら日々業務をしています。	4項目の理念の中に「いつも笑顔で 地域とともに」という項目を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容としている。理念を共用部分に掲示し、職員は理念を意識して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をしたときご近所の方とご挨拶したり、お話ししたりしています。	事業所の庭に近隣の方が散歩に来て犬や猫を見せてもらいながら交流している。感染症流行前は、周辺施設と合同でお祭りを行い、住民と交流していた。感染症収束後の再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の状況で外部との取り組みは行いませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の状況で開催しませんでした。	感染症の流行により運営推進会議を中断している。町の職員、町内会役員、利用者家族などがメンバーであり、文書で事業所の活動を報告しているが、最近滞っている。	実際の会議が難しい期間は、メンバーに対して事業所の活動報告を2か月ごとに行うとともに、テーマを設定して情報提供を行い、意見を収集してサービス向上に活用することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定調査など通じて情報交換を図っています。	町内の介護事業所連絡会議に出席し、町職員や地域包括支援センター、他の介護事業所などと情報交換している。何かあればすぐ行政に相談できる体制となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておりません。玄関の施錠も夜間以外は行っておりません。身体拘束の禁止となる具体的な行為(11項目)を掲示して日ごろから意識しております。	身体拘束を行っておらず、身体拘束のマニュアルを用意して禁止の対象となる具体的な行為の理解を進めている。一方、身体拘束に関する委員会や勉強会の記録は整理されていない。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は自由に入出りできる。	身体拘束に関する委員会と勉強会を必要な回数実施し、議事録や勉強会資料を整理・保管しておくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる危険性のあるケアについて日頃より職員間で話し合いながら自らの実践を検証するよう努めています。		

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	栗山町主催の事業所連絡会議の場において研修会もありましたがコロナ禍でもあり参加を控えておりました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にご本人、ご家族に重要事項の説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でご家族の面会は控えていただきました。電話連絡の際に意見要望を聞いております。入居者様に何かあればその都度ご家族に電話連絡しております。	家族には主に電話で連絡している。家族とのやりとりを業務日誌や介護記録に記載し、共有している。毎月「ほのかの里」だよりを作成し、個々の利用者の写真を載せて家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当日の勤務者の打ち合わせの中で意見交換しております。	定期的な会議を行っていないが、日々の申し送り時や休憩時間に管理者が職員の意見を聞いている。職員の意見をもとに居室の家具の配置を変えたり、手すりの増設を行った例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は各職員の声を十分に聴いてから作成しています。都合があればお互い様で臨機応変に勤務調整を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中で取り組みはありませんでした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中で取り組みはありませんでした		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境での生活はご本人にとって不安でいっぱいです。その気持ちに共感しながら安心できる関係づくりのために努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の見学を通じて家族との関係づくりもできていると思います。ご家族から要望があればすぐに反映できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を行っています。特に他のサービス利用の必要は見られませんでした。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴、家族歴に共感する姿勢を持つことをこころがけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに共感する姿勢をもつようこころがけております		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの電話やお手紙を大事にしながご本人の気持ちに沿った支援を心がけています。	感染症流行前は近所に住んでいた友人などの来訪があった。感染症収束後に再開できるようにしたいと考えている。馴染みの美容室に通う利用者があり、事業所で送迎している。馴染みの場所である栗山公園での花見に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんの輪の中に入っている感覚をレクなどを通して持つ事ができてるよう支援します。		

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的に相談、支援を行った事例はありません。個別に必要ながあれば応じて行いたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話を通じてご本人の思いをくみ取るよう努めています。	思いや意向を表現できる利用者は3割ほどで、難しい場合も問いかけの反応などから把握している。個々の「課題分析(アセスメント)概要」に趣味や嗜好を追加しているが、記載が十分といえない。	「課題分析(アセスメント)概要」の趣味・嗜好の情報をさらに充実する意向であり、その取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どんな生活をしてきたのか(生活歴)を把握し、ご本人の歩んできた人生に共感を持ちながら接することができるよう心掛けております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身の状態の把握に努めています。特に認知症状の把握に努め心穏やかに過ごせるよう心掛けています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の情報を共有できるよう日々の業務の中で務めています。各職員の意見が介護計画に反映できるよう作成しております。	計画を3か月ごとに見直している。モニタリングシートを作成し、担当者会議を経て計画を更新している。日々の介護経過記録の計画目標確認欄にチェックを入れており、さらに利用者の変化なども具体的に記載する意向としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の情報を共有し日々の業務の中で気づいたことを各自記録するよう務めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の状態に合わせて、その時その時に必要な柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の散歩することで四季を感じています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の中核医療機関である栗山日赤病院が協力医療機関であり専門的な治療が必要なときは専門病院を受診しています。	1名の利用者が訪問診療を受けている。他の利用者は栗山日赤病院に通院しており、事業所で通院支援を行っている。受診内容を個人ごとの「医療関係経過記録」に記録し、共有している。	

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎週月曜日に入りアドバイスをいただいています。状態に変化があれば電話連絡し指示をもらいます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときは病院と密に連絡を取り合い医療情報の把握に努めています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明しご家族・ご本人より同意を得ております。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し同意書に署名捺印を得ている。過去には事業所での看取りも行っていたが栗山日赤病院を主治医とする利用者が多くなり、今後重度化した場合は入院となる方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から入居様の身体状態を把握し職員同士で話しあっております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間を想定しての避難誘導訓練を行っています	感染症流行もあり、今年度の避難訓練は1回であり、地域住民の参加はなかった。地域で行われる救急救命訓練に職員が複数参加している。地震時の対応を記載したものを事務所に掲示し、共有している。	次年度以降は年2回以上の避難訓練を行うとともに、地域住民や近隣関連施設等との協力体制の構築を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様と関わる上では人生の先輩として尊敬の念をもち関わるよう努めています。心無い言葉かけをしないよう注意しています。	新入職員には利用者を尊重する基本を伝え、理解を深めている。職員は馴れ合いから尊厳を無視した誘導や言葉かけをしない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からのご希望や訴えがほとんどないのが現状です。職員が気持ちをくみ取り意思決定することが多くなってしまいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の自由な気持ちをできるだけ尊重し極力無理強いはいはしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔さを優先しながらもご本人に合う色合いの服を選ぶなどして、少しでもおしゃれを意識できるように支援を行っています。		

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物は何かご家族からお聞きして、お誕生日の献立に入れたりしています。いろいろ、盛り付けを工夫する、楽しく会話するなど楽しい食事の雰囲気作りに努めています。	好みや旬の食材を生かし、手作りの食事を提供している。調理する音や出汁の香りが立ち、好評である。利用者も一緒に材料の下拵えや食器拭きで力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別的な状況に応じてお粥・ペースト・刻み食にしたり、水分摂取量の少ない方にはポカリスエット、コーヒー、アイスクリームなど口あたりのよいものを意識して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っております。口腔内に異常が見られた際には歯科受診しています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のオムツ交換の方(全介助)、定時のトイレ誘導が必要な方など各利用者様の自立度に合わせた対応しています。	排泄パターンを把握して、利用者に応じた声かけや誘導でトイレ排泄を維持できる様に支援している。今は4割の利用者が自立している。職員は気持ちよくスムーズな排泄ができるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も服用しますが、できるだけ自然排便ができるようジュース、お茶、ヨーグルトなどを提供しています。またラジオ体操、レクリエーションなど体を動かす関わりをしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用するなど入浴を楽しめる支援を行っております。失禁された方はシャワー浴で不快感のないよう対応しています。	週2回程度、利用者の体調や気分を考慮しながら、同性介助や湯加減、入浴剤など希望に沿う様に職員は工夫している。福祉用具や複数介助で安心安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい方には休んで頂けるようご本人の生活リズムに合わせて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何のための服薬かスタッフ間で情報を共有して変化があれば看護師、主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、もやしのひげとり、テーブル拭き、下膳、洗濯物を畳むなどお願いしています		

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は前庭、東屋に出て外気浴をしています	感染症の流行で外出行事は自粛している。施設前には東屋を設置して、日光浴や外気浴で気分転換を図り、花壇や散歩中の動物とのふれ合いを楽しんでいる。近くの栗山公園までは車椅子の利用者も一緒に出かけて、桜や季節の様子を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を出来る方がいないのが現状です		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がきたとき、ご本人にも電話に出てもらいます		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるよう室内に植物を置いたりしています。夏は冷房、扇風機で調整したり西日が強く入る部屋にはカーテンを締めるなどの温度調整を行っています。冬は乾燥を防ぐため加湿器の設置し各部屋に濡れたバスタオルをかけています。	共用空間は広々として、大きなソファや特大の食堂テーブルでゆったりとテレビ鑑賞や食事を楽しんでいる。居間の両側には居室が並び、廊下は回廊式で歩行運動にも利用している。居間からはトイレや浴室は見えず利用者のペースで排泄している。壁には利用者と職員が季節感ある手作り作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る場所は利用者様どうしのなかで自然に決まっているようです。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族にとって馴染み家具や思い出の写真があれば部屋に置いています。	居室にはベッドとクローゼットが備え付けられている。利用者の馴染んだ椅子や鏡台などを持ち込み、壁には家族写真やカレンダーを貼り、居心地よい部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、浴室、廊下に手すりが設置されています。玄関には座れる長椅子と外に出るとスロープがあり安全に外出できるよう配慮しております。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里 B棟		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80		
自己評価作成日	令和4年3月17日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自尊心やプライバシーを維持しながら本来その方が持っている残存機能を生かし「その人らしく」生活を送ることができるよう努めています。四季に応じてホーム主催の地域の方が参加できる行事に地域の人たちとの交流で信頼されるホームを目標にしています。隣にはデイサービスが併設されており時々交流を持っております。災害や緊急時に対しての支援体制が整備されています。職員も日々試行錯誤を重ねながら気づきや又、学びをしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0175800358-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0175800358-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し行動しているつもりですが 状況によって工夫が必要に 感じます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナの影響で 中々外出できませんが散歩の際にはご近所の方へ挨拶したりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改めてそのような機会はありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は 開けてません。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や訪問なので 役場の担当者の方とは連絡を取る機械が あります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は 行われていません。日中は 玄関の施錠せず過ごしてます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で虐待についたて 話す機会がありました。		

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば参加していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行えてと思います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年は面会もできず意見 要望聞かせていただく機会が あまりありませんでした。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を発言しやすい状況を作り反映できるよう務めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は悪くないと思います。困ったとき助け合える環境整備は出来ていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は 研修は ありませんでした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はありませんでした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	充分かは わかりませんが、一人ひとりが安心してやり関係に務めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係作りも 出来ていると思います。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な対応を 行っております。だい			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所の手伝いや 洗濯物をたたんで頂いたりと生活に参加している意識を作れるよう務めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに共感する姿勢を 持つことを心掛けてます。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの電話やお手紙を 大事に しながらご本人の気持ちに沿った支援をこころがけてます。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんの輪の中に入ってる感覚をレクなどを通して持つ事ができるよう支援します。			

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な支援を行ったことはありませんが機会があれば必要に応じて行いたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じて寄り添い意向を把握できるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話や家族を通じて情報等から把握しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った生活が出来るように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を共有し日々の業務で努めています。各職員の意見が介護計画に反映できるよう作成しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別記録を記入し 情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の状態に合わせてその時そのとき 必要な柔軟な対応を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の散歩することで四季をかんじています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々人に合わせて行っております。		

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎週水曜日に入りアドバイスをいただいています。状態に変化があれば電話連絡し支持をもらいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときは病院と密に連絡を取りあい医療情報の把握に努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度御家族と密に連絡を取って方針を話しあいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	充分周知しているつもりですが、咄嗟の時に必要な対応が取れるよう職員で話し合っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 日中、夜間を想定しての避難誘導訓練を行っております。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけを丁寧に行うことの大切さを、全員で周知して、同じ意識を持つための工夫心掛けております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様一人ひとりが穏やかな気持ちで過ごされているとおもいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体的ケアが多くなってきており一人ひとりの思いを十分に汲み取れない事もありますが自分のペース大事に過ごせてるとおもいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保ちおしゃれに意識できるような支援を行っております。		

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの嫌いなものを把握し楽しく食事が出来るよう工夫しております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を把握して意識的に水分が取れるようしえんしております。低栄養にならぬように心掛けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の歯磨きを促していますが拒否する御利用者様もいて今後の課題と思えます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の方は時間をみてのおむつ交換 自立度に合わせた声かけたい王を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も服用していますが 水分や運動など自然排便できるよう務めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否御利用者様も多くタイミングを図りながら声かけしております。入浴に楽しみが持てるように工夫も心掛けてます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人のペースに合わせて過ごしていただいているので十分に休息できていると思えます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について職員全員が理解し 管理しています。飲み忘れや間違いのないように務めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でテーブルを拭いていただいたり洗濯物をたたんでいただいたりしていただいています。		

グループホーム ほのかの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化している方が多く外出事が難しい事情があります。天気のいい日には 東屋に 出て外気浴しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行ってる人がいないのが現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話が来たときは出ていただいています。手紙は書ける人がいないのが現状です。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な室温に心掛けてます。季節に合った壁を飾ったりと少しでも四季が感じられるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さん居間で過ごしたり、お部屋で過ごしたり自由に過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や 衣服極力本人の馴染みの物を使用できる工夫をしております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなど設置されていて安全に暮らせていると思います。自室も本人に合わせて家具の配置など工夫しています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームほのかの里

作成日：令和 4年 4月 19日

市町村受理日：令和 4年 4月 20日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ感染流行により運営推進会議が中断している。	利用者状況やサービスの実際を各関係者に報告してそこでの意見をサービス向上につなげていく。	会議が開催できないときはメンバーに活動報告の情報提供をする。	1年
2	6	身体拘束についての委員会と勉強会等の開催が不十分である。	全職員が身体拘束をしない実践についての理解を深める。	身体拘束に関する委員会と勉強会を開催しその議事録と資料を保管する。	1年
3	23	利用者をより深く理解するために、これまでの暮らし方や趣味・趣向について詳細な記載が十分でない。	ご本人の思いや暮らし方の希望の把握に努める。	「課題分析(アセスメント)概要」の趣味・嗜好の記載を充実する。	1年
4	35	今年度の火災避難訓練は年1回の実施であり地域住民の参加が極めてすくない。	災害時(火災・地震・水害など)の地域住民との協力体制を築く。	火災避難誘導訓練(年2回)を実施し地域住民に周知して参加を呼びかける。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。